

整理番号	リンダ [®] PC-1 15Kg/CN	作成日	2015年8月26日
1253-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月14日

Ver. 11.08

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	リンダ [®] PC-1 15Kg/CN
製品コード	1253
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1-1
担当部門	技術開発部
担当者	平沢 肇
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	オートパーツワッシャー専用洗剤
作成日	2015年8月26日
改正日	2016年6月14日
整理番号	1253-03

2. 危険有害性の要約

GHS分類

急性毒性（経口）	区分 4
急性毒性（吸入）	区分 2
皮膚腐食性／刺激性	区分 1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分 3
水生環境有害性（急性）	区分 3
水生環境有害性（慢性）	区分 3

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有害
 吸入すると生命に危険(粉じん及びミスト)
 重篤な皮膚の薬傷・目の損傷
 重篤な眼の損傷
 呼吸刺激を起こすおそれ、又は眠気やめまいのおそれ
 水生生物に有害
 長期的影響により水生生物に有害

整理番号	リンダ PC-1 15Kg/CN	作成日	2015年8月26日
1253-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月14日

Ver. 11.08

3. 組成、成分情報

化学物質 ・ 混合物の区別
 ・ 混合物

成分名／化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
非イオン界面活性剤	非公開	非公開	非公開
リン酸塩	非公開	非公開	非公開
オキシビスホスホン酸 4 ナトリウム	7.2	7722-88-5	(1)-497
セスキ炭酸ナトリウム	10	533-96-0	(1)-164
炭酸塩	非公開	非公開	非公開
亜硝酸ナトリウム	2	7632-00-0	(1)-483
アルカリ剤	非公開	非公開	非公開
キレートザイ	非公開	非公開	非公開

PRTR法報告物質

非該当 該当物質は含有しない。

毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有するが、規定量以下のため非該当。

労働安全衛生法

通知物質： 法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

制令番号	物質名	含有量
111	オキシビスホスホン酸4ナトリウム	7.2%
332	セスキ炭酸ナトリウム	10%

有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有しない。

4. 応急処置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・眠気やめまいの症状が出た場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい状態で休息させる。
- ・医師に暴露物質名、防護のための注意を通知する。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・呼吸が止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。
- ・意識のない被災者には何も飲ませてはならない。
- ・吸入の影響が遅れて現れることがある。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着した部分をよく洗うこと。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。
- ・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。

整理番号	リンダ PC-1 15Kg/CN	作成日	2015年8月26日
1253-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月14日

Ver. 11.08

- ・水で洗浄したのちに衣類が皮膚に張りついている場合は、無理にはがしてはならない。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと皮膚障害を生ずるおそれがある。
- ・直ちに医師の診断を受けること。

目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・洗浄後、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。
- ・必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・特になし

医師に対する特別注意事項

- ・特になし

5. 火災時の措置

消火剤

- ・この製品自体は、燃焼しない。

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

整理番号	リツタ PC-1 15Kg/CN	作成日	2015年8月26日
1253-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月14日

Ver. 11.08

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・ 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・ 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・ 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・ 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・ 風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・ 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・ こぼれた場所はすべりやすいために注意する。
- ・ 作業の際には保護具(必要に応じてガスマスク)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・ 多量の場合、人を安全に待避させる。

環境に対する注意事項

- ・ 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- ・ 大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収、中和

- ・ 少量の場合は、電気掃除機、ほうき等で掃き集める。火花を発生しない安全な用具を使用して、密閉できる容器に回収する。
- ・ 回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・ 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・ 漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・ 製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・ 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・ 取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。
- ・ 取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。
- ・ 取り扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

- ・ 製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・ 容器を密栓すること。
- ・ 日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
- ・ 涼しい所、換気の良い場所で保管すること。
- ・ 施錠して保管すること。
- ・ 湿気の多い所、水周りなど容器が腐食しやすい場所におかないこと

整理番号	リンダ PC-1 15Kg/CN	作成日	2015年8月26日
1253-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月14日

Ver. 11.08

安全な容器包装材料

- ・ 特になし

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・ 蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- ・ 屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。

記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名/化学名	管理濃度	許容濃度
非イオン界面活性剤	-	-
リン酸塩	-	-
オキシビスホスホン酸 4 ナトリウム	-	-
セスキ炭酸ナトリウム	-	OSHA PEL/TWA15mg/m ³ (total dust)5mg/m ³ (resp fraction) MSHA PEL/TWA10mg/m ³ (total dust) ACGIH(2005年版) TLV-TWA 0.5ppm
炭酸塩	-	ACGIH(2007)10mg/m ³ (総粉塵)
亜硝酸ナトリウム	-	-
アルカリ剤	-	-
キレートザイ	-	-

保護具

呼吸器の保護具

- ・ 保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

- ・ 保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

目の保護具

- ・ 保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・ 保護衣、保護前掛け等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 青色粉末状
臭い	: 原料臭
臭いのしきい値	: データなし
pH	: 11.3 (1%水溶液)
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: なし
引火点	: なし
自然発火温度(発火点)	: なし

整理番号	リソダ PC-1 15Kg/CN	作成日	2015年8月26日
1253-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月14日

Ver. 11.08

燃焼性（固体、気体）	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重	: なし
溶解性	: 水に溶解
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度（粘性率）	: データなし
その他のデータ	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・ 通常の手扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

- ・ 特になし

避けるべき条件

- ・ 特になし

混触危険性物質

- ・ 特になし

危険有害な分解生成物

- ・ 特になし

その他

- ・ 特になし

11. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ 非イオン界面活性剤

《急性毒性》

参考 POE (n=23)C12アルキルエーテル

経口:ラット雄 LD50=8600mg/kg ラット雌 LD50=9350mg/kg マウス雌 LD50=4000mg/kg

《皮膚腐食性/刺激性》 POEラウリルエーテル

ヒト 6mg/3日間 中程度の刺激 ウサギ500mg/2H 中程度の刺激

《眼損傷性/刺激性》 POEラウリルエーテル

ウサギ 750 μg/24h

・ リン酸塩

《急性毒性》

経口:ラット経口LD50 3120mg/kg

経皮:ラット経皮LD50 2060mg/kg、ウサギ経皮LD50>4640mg/kg

吸入(ガス):データなし

吸入(蒸気)データなし

吸入(粉じん・ミスト):データなし

整理番号	リンダ PC-1 15Kg/CN	作成日	2015年8月26日
1253-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月14日

Ver. 11.08

《皮膚腐食性/刺激性》
ウサギ500mg/24H 中程度

・ オキシビスホスホン酸 4 ナトリウム

《急性毒性》
経口:ラットのLD50=1000~3000mg/kg(ACGIH(2001))の下限値LD50=1000mg/kgに基づき、区分4とした。

経皮:データなし
吸入:データなし

《皮膚腐食性/刺激性》
ヒトでmildからmoderateの皮膚刺激反応が見られたとの記載(ACGIH(7th, 2001))に基づき、区分2とした。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》
ウサギでsevereの眼刺激性があり角膜に障害をもたらすとの記載(ACGIH(7th, 2001), HSDB(2003)), ヒトでmildからmoderateな刺激が認められる(ACGIH(7th, 2001), HSDB(2003))との記載、および重度の刺激性と化学的火傷のもととなる危険性があるとの記載(HSFS(2001))に基づき、区分2Aとした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:データなし
皮膚感作性:データなし

《生殖細胞変異原性》
データなし。

《発がん性》
データなし。

《生殖毒性》
データなし。

《標的臓器/全身毒性(単回暴露)》

ヒトで咳および鼻と咽頭の刺激がみられる(ICSC(J)(1997), HSFS(2001))ことに基づき、区分3(気道刺激性)とした。

《標的臓器/全身毒性(反復暴露)》
データ不足のため、分類できない。

《吸引性呼吸器有害性》
データなし。

・ セスキ炭酸ナトリウム

《急性毒性》

経口: ORAL LD50 3000mg/kg(rat)
経皮: データなしなので分類できない
吸入(ガス): データなしなので分類できない
吸入(蒸気) データなしなので分類できない
吸入(粉じん・ミスト): 粉じん: INHARATION LC50: 5.03mg/L(4H)(rat)

《皮膚腐食性/刺激性》

ヒトで皮膚に対する刺激性の記載があり、また職業暴露を受けた採鉱労働者で刺激に基づく皮膚症状愁訴が報告されていることから 区分2とした。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ウサギの眼に対し刺激性と7日目まで結膜炎が見られたと記述されている。又、ヒトでも眼に対する刺激性が記載され、実際に職業暴露による刺激性も報告されている。これらの知見に基づき区分2Aとした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性: データなしなので分類できない
皮膚感作性: データなしなので分類できない

《発がん性》

NTP: Not listed/IARC: Not Listed/OSHA: Not Listed/OTHER: ACGIH Not Listed

《生殖細胞変異原性》

データなしなので分類できない

《生殖毒性》

データなしなので分類できない

整理番号	リソダ PC-1 15Kg/CN	作成日	2015年8月26日
1253-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月14日

Ver. 11. 08

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

暴露を受けた採鉱労働者の疫学調査により、上気道症状の愁訴や肺活量の低下が見られたこと、さらに気道に刺激性があるとの記載もあり区分3(気道刺激性)とした。

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

データなしなので分類できない

《吸引性呼吸器有害性》

データなしなので分類できない

・ 炭酸塩

《急性毒性》: 経口投与 ラット LD50 4,090mg/kg

経皮投与 ラット LD50 2,300mg/m³/2h

《皮膚腐食性/刺激性》 : 皮膚刺激性 ウサギ500mg/24h 軽度

眼に対する重篤な損傷/刺激性: 眼刺激性 ウサギ100mg/24h 中等度

《特定標的臓器》/単回暴露 : 気道刺激性

・ ケイ酸塩

《急性毒性》

経口: LD50 1280mg/kg(ラット)

《皮膚腐食性/刺激性》

強アルカリで腐食性が強い。

同じ成分系である珪酸ソーダにおいて、ウサギを用いた4時間適用による複数の皮膚刺激性試験(OECD-Guideline 404; SIDS (access on 12 2008))において、皮膚の壊死(necrosis)が認められ、腐食性(crrosive)であるとの結果が得られている。

《眼に対する重篤な損傷性/刺激性》

同じ成分系である珪酸ソーダにおいて、ウサギ眼における試験結果が腐食性(crrosive)である。

《呼吸器感受性又は皮膚感受性》

呼吸器感受性: データなし

皮膚感受性: 同じ成分系である珪酸ソーダにおいて、マウスのLLNA法(OECD-Guideline 429)で陰性の結果および接触によるじんましんの一人の症例報告とその人のパッチテストで潰瘍と膨疹の報告(対照の30人は陰性)があるが(access on 12 2008)、データ不足で分類できない。

《生殖細胞変異原性》

同じ成分系である珪酸ソーダにおいて、マウスの骨髄を用いた染色体異常試験(体細胞 in vivo 変異原性試験)の陰性結果に基づき(SIDS (access on 12 2008))、区分外とした。

《発がん性》

同じ成分系である珪酸ソーダにおいて、ラットを用いた14ヶ月および2年間の経口投与試験(SIDS (access on 12 2008), IUCLID (2000))において、発がん性は認められないが、ラット以外の動物種でのデータがないことから分類できないとした。

《生殖毒性》

同じ成分系である珪酸ソーダにおいて、マウスの妊娠期間中の経口ばく露において、仔の発生には影響は認められなかった(SIDS (access on 12 2008))が、親動物の性機能および生殖能に及ぼすデータが不十分であり、分類できない。

標的臓器/全身毒性(単回暴露)

同じ成分系である珪酸ソーダにおいて、ラットを用いた経口投与試験(用量: 538-2000mg/kg bw (males), 910-2600 mg/kg bw(females))において嗜眠状態、呼吸数増加、散瞳、痙攣がみられ(SIDS (access on 12 2008))、ラットを用いた経口投与試験(用量: 1750mg/kg bw)において、無関心、よろめき歩行、呼吸困難が見られている(SIDS (access on 12 2008))。また、マウスを用いた経口投与試験(500-1920.8 mg/kg (males), 500-1372 mg/kg (females))(SIDS (access on 12 2008))において嗜眠状態が見られている。区分2のガイダンス値の用量にて嗜眠状態、チアノーゼ、散瞳、呼吸麻痺、後肢の麻痺などの神経症状が認められていることから、区分2(神経系)とした。

整理番号	リンダ [®] PC-1 15Kg/CN	作成日	2015年8月26日
1253-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月14日

Ver. 11. 08

標的臓器／全身毒性(反復暴露)

同じ成分系であるメ珪酸ソーダにおいて、ラットを用いた3ヶ月間の飲水による経口投与試験(OECD TG408と同様の試験)(用量: 200、600、1800 ppm (雄: 26.4、76.2、227.1 mg/kg/day、雌: 32.1、97.6、237.2 mg/kg/day))においてNOAELはガイダンスの区分2を超える $> 227-237$ mg/kg bwとされ投与による影響は見られていない。他のラットを用いた3ヶ月間の飲水による経口投与試験(用量: 750、1500 or 3000 ppm (雄23、47、110 mg/day、雌: 21、37、84 mg/day))においても(SIDS (access on 12 2008))投与による影響は見られていない。マウスを用いた3ヶ月間の飲水による経口投与試験(用量: 雄300、900、2700 ppm、雌333、1000、3000 ppm)においてNOAELはガイダンスの区分2を超える $260 - 284$ mg/kg bwとされ、最高用量で肝重量の増加、雌の白血球数の減少以外に顕著な影響は認められていない。いずれも区分2のガイドライン値で影響は認められなかったとのデータに基づき区分外とした。

《吸引力呼吸器有害性》

データなし。

・ 亜硝酸ナトリウム

《急性毒性》

経口: ラットのLD50値180mg/kg(RTECS, 2004)、85mg/kg(IUCLID, 2000)、200mg/kg(IUCLID, 2000)に基づき統計処理した結果(LD50=96.8mg/kg)、区分3とした。

吸入(粉じん・ミスト): 吸入(粉じん): ラットのLC50値0.0055mg/L/4H(5.5mg/m³/4H)(RTECS, 2004)に基づき、区分1とした。

《皮膚腐食性/刺激性》

HSFS(1999)では皮膚刺激性の可能性があるとされているが、IUCLID(1999)のウサギの試験(GLP対応)では皮膚刺激性がみられなかったことから、区分外とした。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ウサギの眼刺激性試験では、RTECS(2004)はMild、IUCLID(2000)(GLP対応)ではModerateなので、区分2A-2Bとした。

《発がん性》

NTP TR495(2001)のラットの発がん性試験では雌雄とも陰性、マウスの発がん性試験では雄陰性、雌不確定であったが、この知見はWHOにより陰性と評価されていることから区分外とした。

《生殖細胞変異原性》

マウス優性致死試験で陰性(IUCLID, 2000)、経世代転座試験で陰性(IUCLID, 2000; HSDB, 2003)であること、ラットおよびマウスの骨髄小核試験ならびにマウス末梢血小核試験において陰性(NTP TR495, 2001)であることから、区分外とした。

《生殖毒性》

JECFA(WHO FOOD ADDITIVES SERIES: 50, NITRITE, 2003)、HSDB(2003)のラットおよびマウスの試験において、生殖能への影響および催奇形性は認められなかったことから、区分外とした。

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

Priority 2文書のICSC(J)(2000)、HSFS(1999)、HSDB(2003)、RTECS(2004)にヒトの心血管系(血圧低下等)、血液(メヘモグロビン血症等)に影響があるとの記載があり、区分2(心血管系、血液)とした。

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

Priority 2文書のRTECS(2004)にラットの反復投与試験においてメヘモグロビン血症の報告が2件あり、毒性がみられた用量とガイダンス値との比較により、区分2(血液)とした。

・ アルカリ剤

《急性毒性》

経口: LD50経口ラット1000mg/kg

経皮: データなし

吸入(ガス): データなし

吸入(蒸気): データなし

吸入(粉じん・ミスト): データなし

《皮膚腐食性/刺激性》

データなし

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

データなし

整理番号	リソダ PC-1 15Kg/CN	作成日	2015年8月26日
1253-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月14日

Ver. 11.08

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性:データなし

皮膚感作性データなし

《発がん性》

データなし

《生殖細胞変異原性》

データなし

《生殖毒性》

データなし

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

データなし

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

牛10000~15000mg/kg(1日500~700mg/kg)神経、食欲にゆるい作用。羊20000~25000mg/kg6週間許容

《吸引性呼吸器有害性》

データなし

・ キレートザイ

《急性毒性》

経口:LD50(ラット) 1080mg/kg

LD50(ウサギ) 2300mg/kg

LD50 2300 mg/kg(ウサギ※経口)(RTECS)

LD50 2050 mg/kg(マウス※経口)(RTECS)

その他急性毒性(RTECS)

LD50 260mg/kg(マウス※腹腔内)

LD50 56 mg/kg(マウス※静脈内)

LD50 47 mg/kg(ウサギ※静脈内)

《皮膚腐食性/刺激性》

粘膜に対し弱い刺激性あり

《有害性その他》

慢性毒性50mg/kg(ウチキ)以下なら安全

12. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報:記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ 非イオン界面活性剤

《生態毒性》

魚毒性:参考 POEラウリルエーテル コイ 48h-LC50=4.4mg/L

・ オキシビスホスホン酸4ナトリウム

《水生環境有害性(急性)》

甲殻類(オオミジンコ)の48時間LC50=391000 μg/L(AQUIRE、2003)から、区分外とした。

《水生環境有害性(慢性)》

難水溶性でなく(水溶解度=81400mg/L(PHYSPROP Database、2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。

・ セスキ炭酸ナトリウム

《水生環境有害性(急性)》

データなしなので分類できない

《水性環境有害性(慢性)》

データなしなので分類できない

・ 炭酸塩

《生態毒性》

急性魚毒性:カダヤシ LD50 (96h)740ppm

ブルーギル LD50 (96h)300ppm

・ ケイ酸塩

整理番号	リソダ PC-1 15Kg/CN	作成日	2015年8月26日
1253-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月14日

Ver. 11.08

《水生環境有害性》(急性)

同じ成分系であるメ珪酸ソーダにおいて、魚類(ゼブラフィッシュ)での96h-LC50=210mg/L(IUCLID 2000)であることから、区分外とした。

《水生環境有害性》(慢性)

難水溶性ではな、急性分類が区分外であることから、区分外とした。

・ 亜硝酸ナトリウム

《水生環境有害性》(急性)

魚類(ニジマス)の96時間LC50=0.36mg/L(ECETOC TR91、2003)から、区分1とした。

《水性環境有害性》(慢性)

急性毒性が区分1、水中での挙動および生物蓄積性が不明であるため、区分1とした。

・ アルカリ剤

《水生環境有害性》(急性)

データなし

《水性環境有害性》(慢性)

データなし

・ キレートザイ

《水生環境有害性(急性)》

データなし。

《水生環境有害性(慢性)》

分解性 雖分解性

BOD(5):9000mg/L

13. 廃棄上の注意

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

14. 輸送上の注意

国際規制：

国連分類

該当しない

国連番号

該当しない

容器等級： 該当しない

海洋汚染物質： 非該当

国内規制：

容器イエローラベル

該当しない

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・ 荷くずれ防止を確実にを行う。
- ・ 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・ 直射日光を避ける。
- ・ 水漏れ厳禁。
- ・ 横積み厳禁。
- ・ 夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・ 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

整理番号	リンダ PC-1 15Kg/CN	作成日	2015年8月26日
1253-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月14日

Ver. 11.08

15. 適用法令

火薬類取締法：

対象外

高圧ガス保安法：

対象外

消防法：（ ）内は、指定数量

非危険物(消防法上の非危険物)

不燃物である

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法)：

該当物質は含むが規定量以下のため非該当。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法：

通知対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)：

非該当 該当成分を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(危険物)：

非該当

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法 (PRTR法)：

非該当 該当物質は含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

16. その他の情報(参考文献等)

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z7253:2012

GHS分類結果データベース (独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ)

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA(日本オートケミカル工業会)編集:化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版 (日本オートケミカル工業会)

危険物船舶運送及び貯蔵規則 (海文堂)

※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者へ提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。